

令和4年度収蔵資料展

まほろんが  
ボクたちの教室



アンダー

U-15の考古学



かん かん こう ざ  
関連講座

こ こう こ がく きょうしつ  
子ども考古学教室1

ど き まな  
土器を学ぼう



令和4年7月23日(土)

令和4年7月23日(土)

福島県文化財センター白河館・まほろん

# 1 縄文土器のはなし

土器ってなんだろう

粘土ねんどを焼やいてかためて作ったうつわのことです。土器は、中に水を入れて、直接火ちよくせつにかけられることから、土器はつめいの発明によって長い時間じかんをかけて煮炊にたきすることが可能かのうになったと考えられます。

土器は時代じだいの「ものさし」

現在げんざいのところ日本で見つかった土器の中で一番古いものは、青森県あおもりけんのおおだいやまもといちいせき遺跡の土器とされていて、表面についておコゲが約16,500年前という年代かがくぶんせきが科学分析により示されています。

これ以来、土器げんだいは現代にいたるまで長く作られ続けられてきましたが、作られた時代じだい・時期じきや地域ちいきによって、形や模様もようなどがちがいます。考古学では、この中から似た特徴とくちょうを持った土器を仲間なかまとしてまとめています。これを「土器型式けいしき」といいます。

型式ごとに分けられた土器たちは、遺跡での出土のしかたなどをもとに前後関係を決められ、古いものから新しい物へと順番じゅんばんにならべられています。これを「土器編年へんねん」とよんで、時代はかを測る「ものさし」として利用されます。

縄文土器って何？

「縄文」という言葉は、なわのもようという意味で、明治9年(1877)に東京の大森貝塚を発掘したエドワード・シルベスター・モースが出土した土器を指した「cord marked pottery」という言葉を「縄文土器」と日本語訳したことにより

ます。

ただし、縄文土器には、なわ目のつかない土器もあることなどがわかってきたことから、今では、「縄文時代に作られ、使われていた土器」を縄文土器とよんでいます。

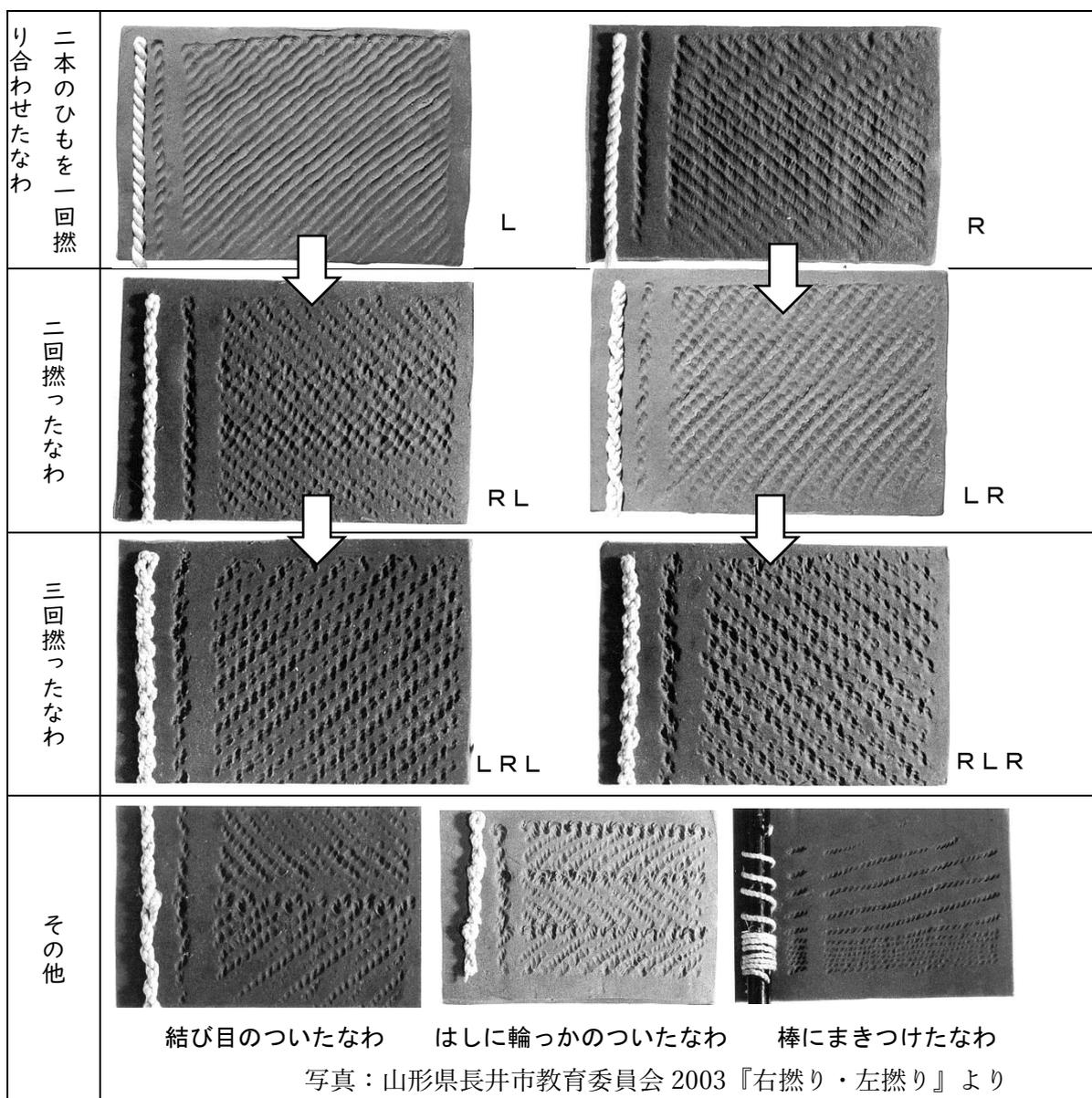
縄文時代とは？

縄文時代は、動物を狩ったり、魚をとったり、木の実・山菜などの植物をあつめたりして食べ物をとっていた時代です。土器や石器、または動物や植物を材料とした道具を使っていました。日本の土器のはじまりである約 16,500 年前から、田んぼでのコメづくりがはじまった約 2,400 年前まで続いたとされています。

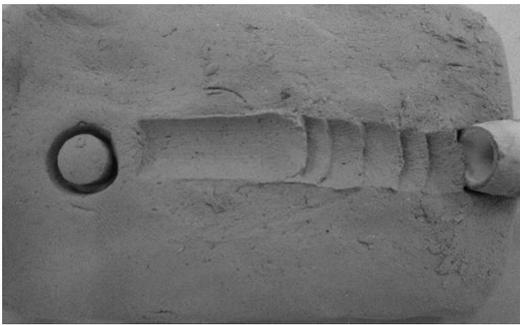
また、大正から昭和の半ばに活躍した人類学者の山内清男という人は、縄文時代を土器編年から草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6時期に分け、今もこの時期区分が用いられています。

## 縄文土器のもよう

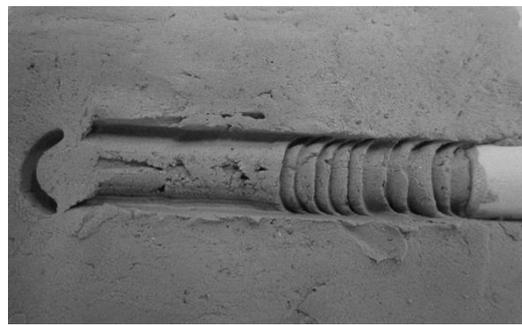
縄文は、主になわを<sup>ころ</sup>転がして付けたもようです。なわを<sup>よ</sup>撚る<sup>ほうこう</sup>方向や<sup>かいたすう</sup>回数をかえたり、<sup>しゆるい</sup>種類のちがうひもを<sup>ま</sup>混ぜたりするとちがうもようがあらわれます。さらに、<sup>むす</sup>結び目や<sup>め</sup>輪っかをつけたり、<sup>わ</sup>棒にまきつけてみたりなど、縄文時代の人たちはいろいろなことをして、たくさんの種類の縄文を付けています。



ぼう  
棒をつかってひかれた線を「沈線<sup>ちんせん</sup>」といいます。たてにわたった竹を使うと二本  
線も書けます。また、棒や竹をつきさした「刺突<sup>しとつ</sup>」や、押し付ける・引くをくり  
かえした「押し引き<sup>おしび</sup>」といったワザも使われます。



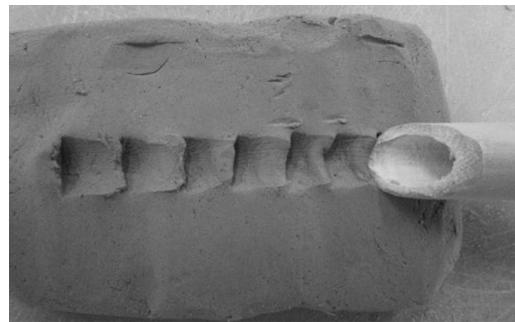
丸い竹でつく・引く・押し引く



割った竹でつく・引く・押し引く



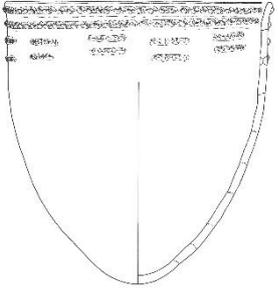
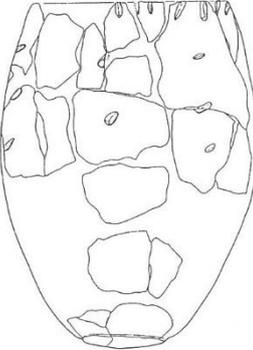
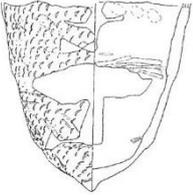
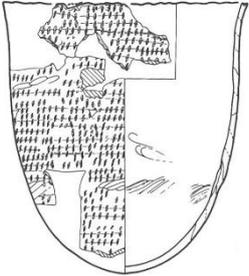
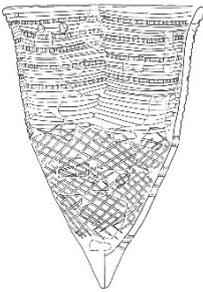
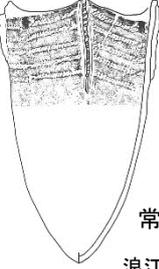
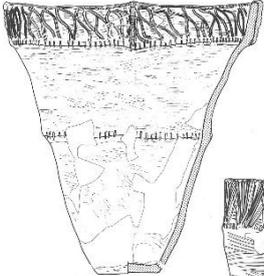
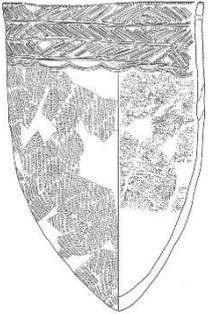
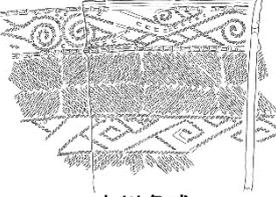
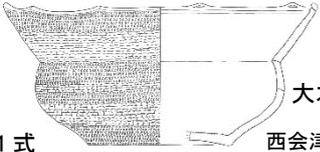
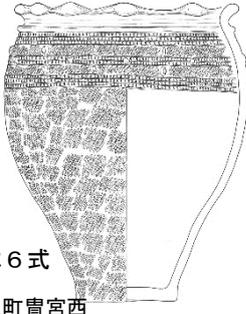
割った竹の外がわをけずった工具で  
引く・押し引く

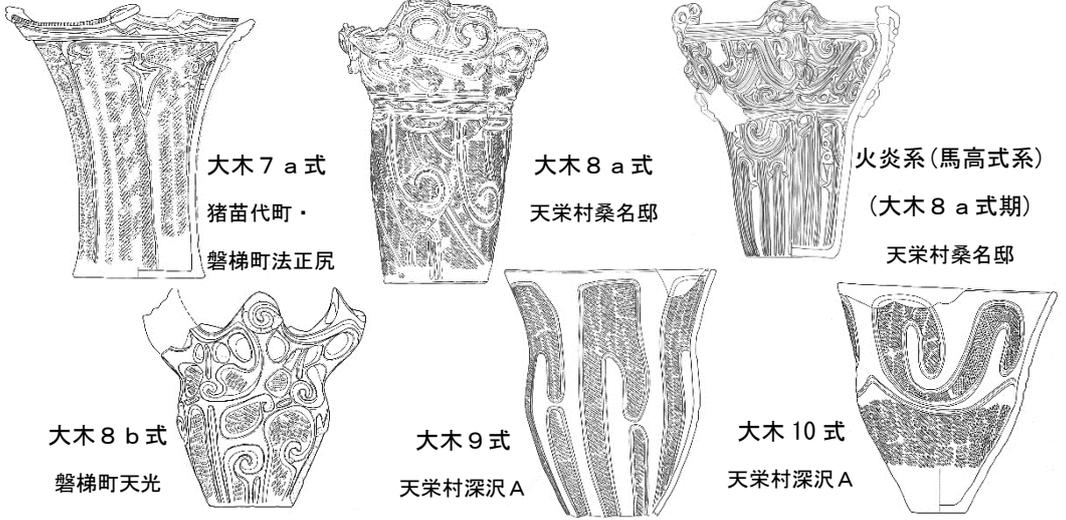
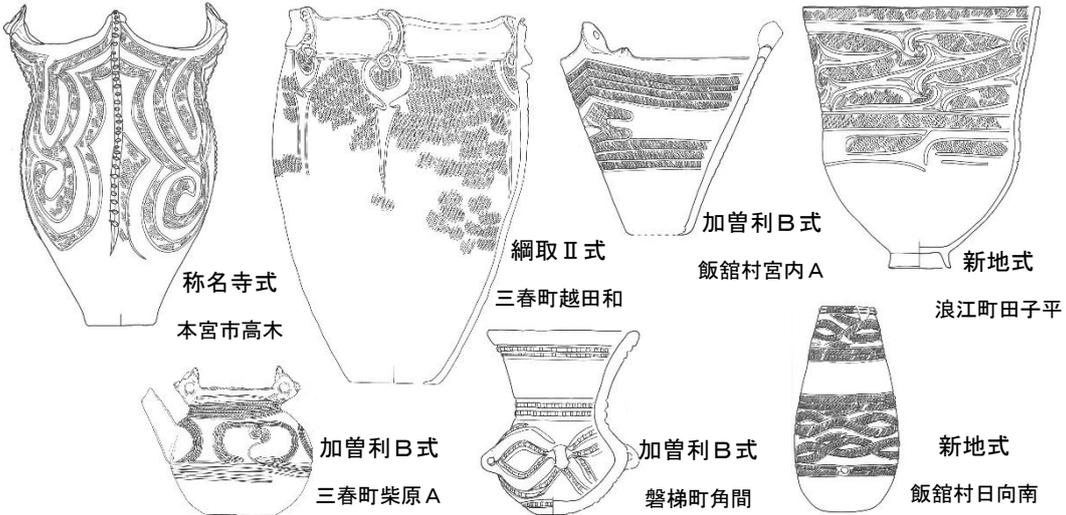
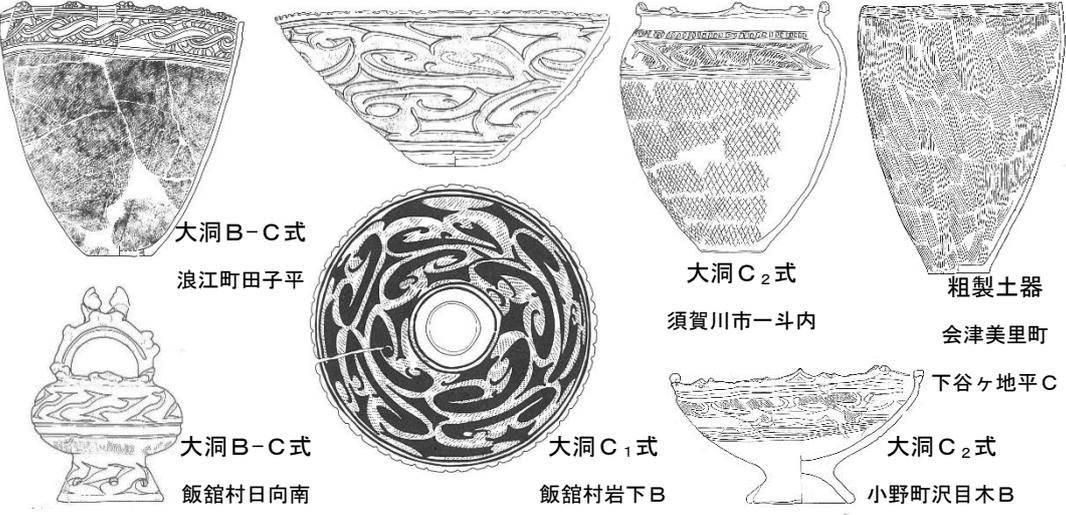


内がわをけずった竹で押し引く

沈線とは逆<sup>ぎやく</sup>に、粘土をはりつけて出<sup>で</sup>張<sup>ば</sup>らせたもようもあります。粘土のひ  
もをはりつけたものを「隆線<sup>りゅうせん</sup>」とよび、1～3ミリほどの細<sup>ほそ</sup>いひもをはりつけ  
たものを「浮線<sup>ふせん</sup>」、逆に太<sup>ふと</sup>いものを「隆帯<sup>りゅうたい</sup>」とよぶこともあります。

いろいろある縄文土器

<p>草創期</p>	<p>16500   11500 年前</p>	 <p>隆起線文土器 神奈川県花見山</p>	 <p>豆粒文土器 長崎県泉福寺洞穴</p>	 <p>爪形文土器 群馬県下宿</p>	 <p>多縄文土器 岩手県馬場野Ⅱ</p>
<p>早期</p>	<p>11500   7000 年前</p>	 <p>田戸下層式 会津美里町北平</p>	 <p>常世1式 浪江町田子平</p>	 <p>茅山下層式 郡山市中ノ沢A</p>	 <p>日向前B式 小野町鴨ヶ館跡</p>
<p>前期</p>	<p>7000   5470 年前</p>	 <p>上川名式 広野町上田郷Ⅵ</p>	 <p>大木3式 会津美里町鷺沢</p>	 <p>大木1式 西会津町塩喰岩陰</p>	 <p>大木2a式 西会津町塩喰岩陰</p>

<p>中 期</p>	<p>5470   4420 年前</p>	 <p>大木 7 a 式 猪苗代町・ 磐梯町法正尻</p> <p>大木 8 a 式 天栄村桑名邸</p> <p>火炎系(馬高式系) (大木 8 a 式期) 天栄村桑名邸</p> <p>大木 8 b 式 磐梯町天光</p> <p>大木 9 式 天栄村深沢 A</p> <p>大木 10 式 天栄村深沢 A</p>
<p>後 期</p>	<p>4420   3220 年前</p>	 <p>称名寺式 本宮市高木</p> <p>網取 II 式 三春町越田和</p> <p>加曾利 B 式 飯館村宮内 A</p> <p>新地式 浪江町田子平</p> <p>加曾利 B 式 三春町柴原 A</p> <p>加曾利 B 式 磐梯町角間</p> <p>新地式 飯館村日向南</p>
<p>晚 期</p>	<p>3320   2350 年前</p>	 <p>大洞 B-C 式 浪江町田子平</p> <p>大洞 C<sub>2</sub> 式 須賀川市一斗内</p> <p>粗製土器 会津美里町</p> <p>大洞 C<sub>1</sub> 式 飯館村岩下 B</p> <p>大洞 B-C 式 飯館村日向南</p> <p>大洞 C<sub>2</sub> 式 小野町沢目木 B</p> <p>下谷ヶ地平 C</p>

縄文土器は何につかった？

縄文土器は、今のところ最古とされる大平山元Ⅰ遺跡の土器におコゲがついていることからわかるとおり、煮炊きをするお鍋<sup>なべ</sup>として作られ始めたようです。その後も煮炊きに使われ続けますが、中にモノをしまうための大きくつくったもの、おわんやお皿<sup>さら</sup>のような盛り付け用<sup>もづ</sup>、水のような液体<sup>えきたい</sup>の注ぎ口<sup>そそ</sup>のついたものなど、徐々にいろいろな使い方の土器がでてきます。

中期より後になると、死んでしまった子どもを入れて埋葬<sup>まいそう</sup>するために土器を使うことも増えてきます。